

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社 宇宙 SO RA		
事業所名	グループホーム ありがとう一番町 2階		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、事業所の基本理念を基に、みんなで考えたホーム理念「その人らしく、笑顔で、すみやすい家、ありがとう一番町」に沿って質の向上を目指し取り組んでいる。ホームの裏にある公園は、子供達や高齢者で一日中にぎやかであり、私達が散歩に行くと笑顔で挨拶を交わして下さる。中には声をかけて下さる方もいて地域の皆さんと馴染みになってきていると感じる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

繁華街にほど近くお茶工場の香りに包まれた住宅密集地に事業所はあります。本年は法人全体で内外の研修体制を見直し、なかでも接遇と新人オリエンテーションに力を入れています。防災、感染症対策、身体拘束・虐待防止、環境整備委員会の設置でそれぞれの責務に励む職員のモチベーションも高まり、家族からも「明るくなったね」の言葉が届いています。初めて開催した夏祭りはバザーや焼きそば販売、バルーンアート、スイカ割りに近隣からも30名余りが訪れ賑わいました。居室にこもりがちだった人がフロアで過ごすことが多くなり、チームケアでその人らしい生活を支えたいと新体制で臨んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の中での実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく笑顔で住みやすい家ありがとう一番町」というホーム理念を掲示し、毎朝の申し送りで唱和して実践に向けている。	暮らしの中で大事にしてきたものや想いが持続できるよう働きかけ、居室にこもりがちだった人がフロアで過ごす時間が増えたことに理念の実践を感じています。ケアに迷ったら理念に立ち返ろうと話合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公園の清掃活動や敬老会、避難訓練などの行事に、積極的に参加して地域との繋がりに向け努力している。	地区の敬老会には3名が出席しており、また月間清掃には2名の利用者が参加し顔なじみとなっています。本年は初めて夏祭りを開催し、バザー、焼きそば、スイカ割りに30名余りが訪れ盛況を見せています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の病院や包括支援センターにホームの情報を開示している。地域の方に理解して頂けるよう交流を深める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の定期的な開催に取り組んでいて、定着している。	地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者が一同に会するなか、包括職員からは時節に応じた留意点が伝えられ町内の行事情報を共有する場となっています。	運営推進会議への家族の出席を期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の生活に関して、市の福祉担当者と連絡を取り合っている。ケアサービスの問題点なども相談しあい協力関係ができています。	毎月窓口を訪問しわからないことにも丁寧な回答があり、また月1回訪れる介護相談員は利用者の話にじっくり耳を傾けてくださいます。行政と民間事業所の意見交換がおこなわれる懇話会にも出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は絶対にしない」という姿勢でケアに取り組んでいるので出入口の施錠はしていない。その人の状態に合わせてながらカンファレンス等を開催している。	身体拘束廃止委員が外部研修に参加し、職員の間関係も場の雰囲気の影響することを学んでいます。スピーチロックへの取組みは「待ってて」を「すぐ行くからね、ごめんなさいね」と言い替えたり「自分が言われたらどうかを考えよう」と伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為や防止に向け カンファレンスやミーティングなどで話し合い理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	お客様1人1人の状況を理解して、必要な方、希望される方には制度の説明も行っており活用されているお客様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点等がないよう、事前に契約までの流れを説明させて頂いたり、必要な方には書類を先に渡し理解頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会は比較的多く、訪問時や電話で、何でも話せたり情報交換出来る関係が築けている。	運営推進会議には利用者の出席もあります。『ありがとう新聞』は利用者が色塗りしたお便りと『身体状況報告書』に近況を書き添えて郵送し、面会や電話で直接話を聴くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや業務中発生した事や意見を伝えやすく受け取りやすい環境作りが出来ている。毎月ホーム会議も開催している。	防災、感染症対策、身体拘束・虐待防止、環境整備委員会に各3名が所属し、ホーム会議での活動報告には率直な意見交換があります。職員間の情報共有に『連絡ノート』を活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体の勤務状況を把握し、就業規則に則った評価にて向上心を持って働けるよう反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材も定着してきた為、力量も把握出来てきた。質の向上のために社内外の研修参加も少しずつ増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が取れないのが現状だが、研修の場などで情報交換をしたり訪問しあえる状況にしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時は、本人や家族に会い生活状況、心身の状態、本人と家族の思いを聞き安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入に至った経緯やご苦勞などを聞き、家族の思いを理解し どのような対応が出来るか解決の方向性を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安を取り除ける様な細かい対応に努めている。必要な支援を家族と相談し、状況により柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の不安や楽しみなどを理解し支え合える関係を作る様に努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を家族に報告し より良い関係が築ける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら今までの生活習慣が維持出来る様 努めている。また 知人の来訪や家族との外出なども継続的な関係が3分の1程度出来ている。	かねてからの願いだっただ方のお墓参りが実現し親戚廻りもできたという嬉しい実績もあります。公園清掃を業としていた人は地域清掃に精を出し、新聞購読や毎日の乳酸菌飲料など習慣も大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活していく中で役割や活動を通し利用者様のレベルの重度化もあり難しい点もあるが、入居者同士の関係が円滑になる様 努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援内容、注意点などの情報提供をし相談事があればいつでも対応できるような関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の希望や要求、思いに応えられるように努めている。困難な場合は家族や本人を交えて検討するようにしている。	ダンスホールに通っていたことがわかり、好みの音楽をかけたところ踊り出す人もありました。関わりをもち会話から生活歴の発見があり、現在はどう思っているのか、家族はどう考えているのかを探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や訪問者とのやり取りの中で、支障のない限り過去の生活環境等情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自1人1人の日々の生活を把握し、心身状態などを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに気分よく暮らせるように 家族や本人から情報を収集しサービス担当者会議やカンファレンス等で話し合いをし、職員全体で考えている。	体調変化がない限り、3ヶ月ごとの見直しとしています。ケアマネージャーと計画作成担当者がモニタリングをおこない、各階ユニットのカンファレンスを経てホーム会議で意見を集約しプランに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録に生活状態や気づいた事を記録し、情報の共有を図っている。必要に応じ介護計画の見直し変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人又は家族の要望や思いに柔軟に応えられるよう日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日など公園に散歩に出かけ、近隣の方々と交流を持っている。また、地域の清掃活動、防災訓練などに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制で対応してくれる協力医療機関を利用しているが家族や本人の希望で他の主治医を利用している方もいる。どちらにも日頃の状態を伝え安心して適切な医療が受けられるよう支援している。	月2回往診とともに24時間の対応が可能な協力医に安心があるため、変更しています。専門医への受診は必要事項をメモで渡し家族にお願いし、結果は特記事項に記載して周知しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな体調の変化にも気を配り、医療や看護に関わる事は細かく報告し、主治医や看護師の指示を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院と常に連携を取りどのような状態かを把握し、本人にとってどのようにしたら最善かを関係機関でとらえ、方向性を決めて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、契約時は対応できるケアについて説明している。看取りの方向であればその状態に近づいた時は、説明や同意の上で家族、医療機関、ホームが一体となって対応をしている。	この一年で1名を看取っています。「終の棲家としてありがたい」との言葉がもらえていますが常に家族の気持ちは揺れ動くため、ターミナルに入った時期には改めて話し合いをもち、カンファレンスで職員の不安を緩和するフォローもあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応している。その後、問題なく出来たか等の反省を含めホーム会議や申し送りで話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加している。ホーム内でも避難方法を確認し職員、入居者ともに訓練を行っている。ホーム内の防災委員は3ヶ月に一度活動報告を義務づけている。	年2回実施し、火災想定として階下へ避難し近くの公園で消火訓練をおこないました。地域防災訓練にも利用者複数名が参加しています。大規模災害では地域からの避難受入れも町内会と協議しています。	夜間想定での避難訓練が実施されることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を大切に受け止め会話するよう心掛けている。人生の先輩として尊敬の念を持ち、傾聴・共感に努めている。	外部研修で言葉遣いや対応、立ち位置を学び、接遇面での向上に努めています。気づいた時には互いに注意し合う光景もあり、柔らかい声のトーンと言葉に添えられた笑顔のある職員が印象的でした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様1人1人に合わせた声掛けをしている。会話の中で自己決定出来る様声掛けや支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の気持ちを尊重し体調など様子観察しながら、会話を通じて気持ちを引き出すよう心掛けている。体操・歌・ゲームなど希望に応じ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方も介助の方も、極力自分で服を選んでもらっているが、その日の気温に合わせて職員が見守りや助言をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前準備でおしぼり巻きはお手伝いをお願いしている。メニューは季節感のある物を取り入れるよう心掛けている。	栄養士が作成したメニューを参考に職員が調理しています。食材は配達ですが、家庭料理を中心としてその人に応じた食形態で提供しています。男性職員が担当する日には女性利用者の応援が自然にあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を把握し、1人1人に合わせた食事提供をしている。制限が必要な方は主治医の指示に従い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、自分で出来る方には声掛け・見守りにて支援している。介助が必要な方には1人1人、状態に合わせたケアをしている。歯ブラシ・コップ等は毎晩 除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にトイレ誘導は2時間を目安に行っている。頻回の方は随時支援している。お客様個々の状態や体調を考慮し、リハビリパンツやパット等を使用したり、使用の見直しもしている。	夜間はポータブルトイレの使用で自立したり、睡眠間隔や尿量を考慮し必要な人に声をかけています。職員3人がかりでトイレでの排泄を実現させた例や、早めの誘導でパッドが不要になった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、義務づける事で排泄管理をしている。便秘対策として繊維質の多い食事や水分を摂れるよう心掛けている。必要に応じ主治医の指示を仰ぎ薬の服用をする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔保持だけでなく、会話も楽しむ時間となっている。入浴を拒否される方にも色々な方法を駆使し入浴して頂いているが、決して無理強いはいしていない。	一日3人を限度とし週2~3回、午後の時間帯に入浴しています。好きな歌が響いたりマッサージしてもらうことで気持ちの良い時間が過ごせています。同性介助にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを観たり新聞を読んだり、ゆっくりお休みになる方や早く寝たいと希望される方などその人の生活習慣に合わせて支援している。昼夜逆転しないよう日中の過ごし方を考え支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状態により薬の変更もあるが、その都度情報共有し対応している。職員が把握しやすいよう1人1人の薬情をファイルし、周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや、やれる事難しい事を理解し、無理なく参加できる環境作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天候を見ながら散歩へ行くことがある。近くに公園もあり、ホームの周りを一周すると丁度良い散歩コースとなる。行事としてドライブなどの外出も取り入れている。	新聞を取ってきたり、花壇への水やり、気分転換として外気に触れる時間を作っています。リニューアルした公園は目にも鮮やかなペインティングと子ども連れで賑わう風景が喜ばれています。近くのコスモス畑、紅葉探しのドライブにと雨天でも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでの管理としている。本人が買い物希望されたり、外出する時など必要に合わせ使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に合わせて、いつでもやり取り出来る様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングでは車椅子の方やシルバーカーの方などが行き来しやすいよう配慮している。ペランダの大きな窓からは光や風が直接当たらないようソファやカーテンで調整している。壁面にはなるべく幼児性のない物を飾るよう心掛けている。	壁面には書道や俳句の個人作品を飾っています。ソファに集い歌や体操に励んだり、近所から寄付されたというカラオケカセットにご満悦な人も居ます。早番は掃除機、遅番は次垂水モップ掛けと決めて取組み、階段に至るまで清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居心地の良い場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時やその後も、家族の協力を得て今まで使っていた馴染みの物や大切にしていた物、思い出深い物を持って来て下さるようお願いしている。	エアコン、タンスが備えつけられ自宅から持ち込まれたベッドは寝心地の良さが漂います。山積みされた新聞すべてをゴミ袋として折る人もあり暮らしの中で役割が発揮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助が必要な方も自立の方も使いやすいようトイレや洗面所などのスペースは広めである。必要な場所に手すりも設置してある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200528		
法人名	株式会社 宇宙 SO RA		
事業所名	グループホーム ありがとう一番町 3階		
所在地	静岡県静岡市葵区一番町30.		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年1月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200528-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちは、事業所の基本理念を基に、みんなで考えたホーム理念「その人らしく、笑顔で、すみやすい家、ありがとう一番町」に沿って質の向上を目指し取り組んでいる。ホームの裏にある公園は、子供達や高齢者で一日中にぎやかであり、私達が散歩に行くと笑顔で挨拶を交わして下さる。中には声をかけて下さる方もいて地域の皆さんと馴染みになってきていると感じる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

繁華街にほど近くお茶工場の香りに包まれた住宅密集地に事業所はあります。本年は法人全体で内外の研修体制を見直し、なかでも接遇と新人オリエンテーションに力を入れています。防災、感染症対策、身体拘束・虐待防止、環境整備委員会の設置でそれぞれの責務に励む職員のモチベーションも高まり、家族からも「明るくなったね」の言葉が届いています。初めて開催した夏祭りはバザーや焼きそば販売、バルーンアート、スイカ割りに近隣からも30名余りが訪れ賑わいました。居室にこもりがちだった人がフロアで過ごすことが多くなり、チームケアでその人らしい生活を支えたいと新体制で臨んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念をホーム内に掲示し、毎朝申し送り唱和し、実践に向け精進している。	暮らしの中で大事にしてきたものや想いが持続できるよう働きかけ、居室にこもりがちだった人がフロアで過ごす時間が増えたことに理念の実践を感じています。ケアに迷ったら理念に立ち返ろうと話合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	避難訓練、公園清掃、敬老会などの参加できる地域の行事には積極的に参加して地域との繋がりが保てる様 努力している。	清掃活動には毎月2名の利用者が参加し馴染みとなっています。地区の敬老会にも3名が出席しています。本年は初めて夏祭りを開催しバザー、焼きそば、スイカ割りに近隣からも30名余りが訪れ盛況を見せています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院や地域包括支援センターなどとの交流、地域の方々との交流を深めて、理解と協力が得られるよう努力したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、町内会、民生委員、ホーム入居者も参加し行われている。2ヵ月毎定期的に開催し、定着してきている。	地域包括支援センター、町内会長、民生委員、利用者の出席があります。地域包括支援センター職員からは時節に応じた留意点が伝えられ町内の行事情報を共有する場となっています。	運営推進会議への家族の出席を期待いたします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課の担当者と常に連絡を取り合い、実情やケアサービスの問題点など相談し 協力関係が築けている。	毎月窓口を訪問しわからないことにも丁寧な回答がいただいています。介護相談員は月に一度来所し利用者の話にじっくり耳を傾けてもらっています。行政と民間事業所の意見交換がおこなわれる懇話会にも出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要に応じ家族に相談しながら、カンファレンスや担当者会議でプランの見直しを行っている。玄関やホームの出入り口の施錠はしていない。『身体拘束0宣言』を遵守し取り組んでいる。	身体拘束廃止委員が外部研修に参加し、職員の間関係も場の雰囲気の影響することを学んでいます。スピーチロックへの取り組みは「待ってて」を「すぐ行くからね、ごめんなさいね」と言い替えたり「自分が言われたらどうかを考えよう」と伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、職員で周知出来る様ミーティングで研修報告を行い、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者個々の状況を把握し、必要な方にはその都度説明させていただいている。現在活用されている方もいて定期的に面談もされている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まる前に契約締結に至る流れを説明させていただき、不安や疑問などが解消出来る様 説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は設置しているが、意見や要望は今のところない。家族の訪問も比較的多く要望や意見など何でも話せる関係が出来ている。	運営推進会議には利用者の出席もあります。『ありがとう新聞』は利用者が色塗りしたお便りと『身体状況報告書』に近況を書き添えて郵送し、面会や電話で直接話を聴くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やカンファレンス、日々の申し送り等でコミュニケーションを図り 意見などを言いやすく聞きやすい環境作りに努めている。	防災、感染症対策、身体拘束・虐待防止、環境整備委員会に各3名が所属し、ホーム会議での活動報告には率直な意見交換ができています。職員間の情報共有に『連絡ノート』を活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握し、就業規定を基に向上心を持って働けるよう給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材の入れ替わりや異動などが続きなかなか落ち着かないが全体の力量の把握は出来てきている。事業所内外の研修の機会を増やし質の向上に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会がなかなかとれない為、研修等に参加し他事業所との情報交換を行うことで相互の訪問など交流を拡げて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご本人や家族と面談し生活状況や心身の状態、それぞれの思いなどを傾聴し信頼関係が築けるよう、また 安心して頂けるよう配慮に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の現状やサービスを導入に至った経緯、ご苦労など傾聴し、ご家族の思いを理解しどのようなケアや対応が出来るか一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では本人の不安を少しでも無くすよう細かい事に気を配り、必要な支援を考慮しながら 家族と相談し 柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の楽しみや馴染み、不安などを把握し共に支え合える環境作りに努めている。又、家族と同様な関係作りにも努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の様子を家族に報告し、必要に応じ協力して頂ける様 良い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の今までの生活習慣が継続出来る様、家族に協力を得ながら支援に努めている。また、馴染みの方の来訪もあり良い関係も続いている。	かねてからの願いだった遠方のお墓参りが実現し親戚廻りもできたという嬉しいエピソードもあります。公園清掃を業としていた人は地域の清掃活動に精を出し、新聞購読や毎日の乳酸菌飲料など習慣も大事にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での役割、活動を通じ入居者同士の関係が円滑になる様 支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、支援内容などの情報提供をしたり相談事にはいつでも対応させていたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や要求などに応えられるよう把握に努めている。要求などが困難な場合は本人や家族を交え検討するようにしている。	ダンスホールに通っていたことがわかり、好きだった音楽をかけたところ踊り出す人もありました。関わりをもち会話から生活歴の発見があり、現在はどう思っているのか、家族はどう考えているのかを探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との関わりの中で差し障りない程度の過去の生活環境等 情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしや心身状態などを1人1人把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が穏やかに気持ちよく過ごせる様に、本人と家族から情報を収集し カンファレンス等で話し合いを持ち、職員全体で考えている。	体調変化がない限り、3ヶ月ごとの見直しとしています。ケアマネージャーと計画作成担当者がモニタリングをおこない、各階ユニットのカンファレンスを経てホーム会議で意見を集約しプランに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子や気付いたことを記録し、職員間で情報の共有を図っている。必要であれば介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに柔軟に応えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での防災訓練や清掃に参加し、地域の方々と関わりを持っている。天気の良い日は公園に散歩に出かけ近隣の方々と会話をしして過ごす事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間での対応ができる医療機関を利用している。中には家族や本人の希望で他の主治医を掛かりつけ医にしている方もいる。日々の状態を報告し適切な医療が受けられるよう支援している。	専門医を除き協力医や往診可能な医療機関に変更しています。協力医は月に2回往診があり24時間対応が可能です。専門医への受診は必要事項をメモで渡し家族にお願いし、結果は特記事項に記載して周知しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察を行い小さな変化にも気を配り、医療や看護に関わる事は報告している。看護師や主治医の指示を仰ぎ適切な支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族、病院と情報交換を行い状態の把握に努めている。本人にとっての適切な方向性も関係機関全体で考え、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し契約時には対応できるケアについて説明している。終末期のケアについては、その状態に近づき希望されるのであれば説明、同意の上関係機関がチームとなり対応を行っている。	この一年で1名を看取っています。「終の棲家としてありがたい」との言葉がもらえていますが常に家族の気持ちは揺れ動くため、ターミナルに入った時期には改めて話し合いもち、カンファレンスで職員の不安を緩和するフォローもあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って対応している。対応後は、ホーム会議や申し送りなどでその時の対応について反省を含め意見交換をしている。今後は職員全員が対応出来る様実践研修も行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、ホーム内でも年2回防災訓練を行っている。基本的に職員も入居者も全員参加で取り組んでいる。	年2回実施し、火災想定として階下へ避難し近くの公園で消火訓練をおこないました。地域防災訓練にも利用者複数名が参加しています。大規模災害では事業所で待機し地域からの避難受入れも町内会と協議しています。	夜間想定での避難訓練が実施されることを期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の時代背景を理解し傾聴に努めている。本人の意思を尊重し受け止め会話するよう心掛けている。	外部研修で言葉遣いや対応、立ち位置を学び、接遇面での向上に努めています。気づいた時には互いに注意し合う光景もあり、柔らかい声のトーンと言葉に添えられた笑顔のある職員が印象的でした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせ個々に応じた声掛けをしている。会話の中で自己決定出来るよう心掛けて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の中で体調を伺いながら、本人の気持ちを尊重し、希望によりゲームや歌、散歩が楽しめるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自力で着脱できる方は自分で服を選んでいる。愛用の化粧水などを使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備として、おしぼり巻きやお茶入れ、配下膳など、声掛けして手伝いをお願いしている。また、季節を感じるメニューも取り入れている。	栄養士が作成したメニューを参考に職員が調理しています。食材は配達ですが、家庭料理を中心としてその人に応じた食形態で提供しています。男性職員が料理する日には自然に女性利用者のお手伝いが集まります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状により水分や食事制限のある方には主治医の指示に従い提供。また 一日の摂水量や食事量もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを支援している。介助の必要な方には個々に合わせたケアを行っている。歯ブラシやコップ等は毎晩除菌消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人差はありますが歩行が不安定な方は付き添い、車椅子の方は見守り介助等させて頂いている。	早めの誘導でハットが不要になった人もいます。夜間はポータブルトイレの使用で自立したり、睡眠間隔や尿量を考慮し必要な人に声をかけています。本人の意思を尊重し職員3人がかりでトイレでの排泄を支援した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをし、繊維の多い食事や水分、牛乳等を提供している。薬の必要な方は、主治医の指示にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調、希望になるべく浴うよう心掛け入浴をしている。拒否される方もいるが、声掛けなど工夫しながら清潔が保てる様支援している。	一日3人を限度とし週2～3回、午後の時間帯に入浴しています。順番はその日の気分に応じて変わりますが、好きな歌が響いたりマッサージしてもらうことで気持ち良い時間が過ごせています。同性介助にも応じています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中は散歩やゲーム、テレビなどその人の生活習慣に合わせ、楽しく過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士、連絡ノートを利用し薬に変更等があった時は情報を共有出来る様にしている。個々の薬情をファイルし職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の、できる事できない事を見極めて無理なく参加出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は気分転換に散歩に出ている。ホームの行事でも外出を取り入れている。	新聞を取ってきたり、花壇への水やり、気分転換に外気に触れる時間を作っています。リニューアルした公園は目にも楽しいペインティングと子ども連れで賑わう風景が喜ばれています。近くのコスモス畑、紅葉探しのドライブなど雨でも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム管理としている。本人の希望が強い場合、家族の協力や同意のうえ、少額を本人が持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があればスタッフが電話をかけ取り次いでいる。家族からの電話や手紙も同様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの共用部は好きなところでくつろげるように椅子やソファを置いてある。掲示物は生活や季節を感じられる物にしていて幼稚性のある物は控えている。	壁面には書道や俳句の個人作品を飾っています。ソファに集い歌や体操に励んだり、近所から寄付されたというカラオケカセットを楽しむ人もありました。早番は掃除機、遅番は次亜水モップ掛けと決めて取組み、階段に至るまで清掃が行き届いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所は強制せず、思い思い自由に好きなところで過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方に、今まで使用していた物や大切にしていた物など持って来て下さるようお願いしている。	エアコン、タンスが備えつけられ自宅から持ち込まれたベッドは寝心地の良さが感じられます。山積みされた新聞すべてをゴミ袋として折る人もあり暮らしの中で役割が発揮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台やトイレなど比較的スペースが広い。危険の無いように配置を考え、手すりも設置してある。		